

国道34号 おおむらし 大村市～いさはやし 諫早市

第3回 説明資料(別冊)

【第2回意見聴取結果】

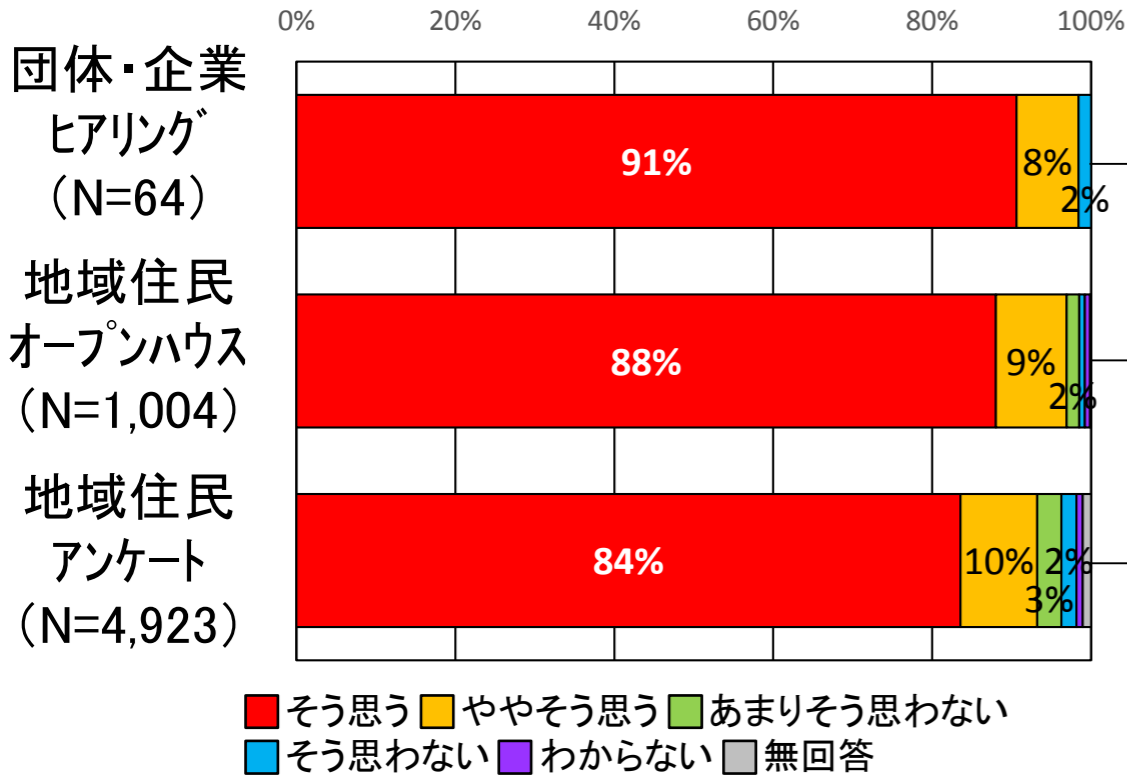
平成29年 6月 7日

国土交通省 九州地方整備局

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【①渋滞が少なくスムーズに移動できること】

- いずれの意見聴取方法においても、9割以上が重視すべき(“そう思う”“ややそう思う”)という傾向にある。
- 自由意見では、慢性的な渋滞による非効率な迂回や定時制が低いことが挙げられている。
- 自治体意見においても、当該路線の渋滞解消が期待されている。



- 大村市の工場に鋼材等重量物の運送があるが、国道34号は渋滞がひどい時間帯は通らず、県道37号線を利用。しかし、客先への配送時間に遅れることもあり、またトラックの燃費も悪化している。(諫早市)
- 通勤と製品配送、原材料搬入のルートなので、改善を望む。とくに原材料の搬入が遅れると、24時間体制で稼働している工場の作業がストップしてしまうので、重大問題となる。(大村市)
- 朝夕の自然渋滞もひどいが、交通事故が発生した場合、すぐに大渋滞となり、車が全然進まない状態になる。改善が必要。(諫早市)

- 子供が諫早の高校に通学しています。たまに、朝夕の送り迎えをするのですが、国道34号が混んでいるので、毎回、三浦(県道37号線)を通っています。(大村市)
- 大村と諫早間の行き来については、常に渋滞による時間ロスを考慮せねばならず、大事な用がある時は使えない路線になっている。一刻も早く渋滞なく通行できる状態を実現していただきたい。(大村市)

- 通勤上利用しているが、混雑のため疲労も大きい。早期着工・完成で長崎までの通勤時間を短縮してほしい。(大村市)
- 大村の病院に通うのに時間の予測が難かしいので、いつも時間の無駄がある。早期の開通をお願いします。(諫早市)
- 長い年月、渋滞があたりまえの道路でした。この機会に費用をかけて、今以上に交通量が増えてもいいように整備してもらいたい。(大村市)

【自治体意見】

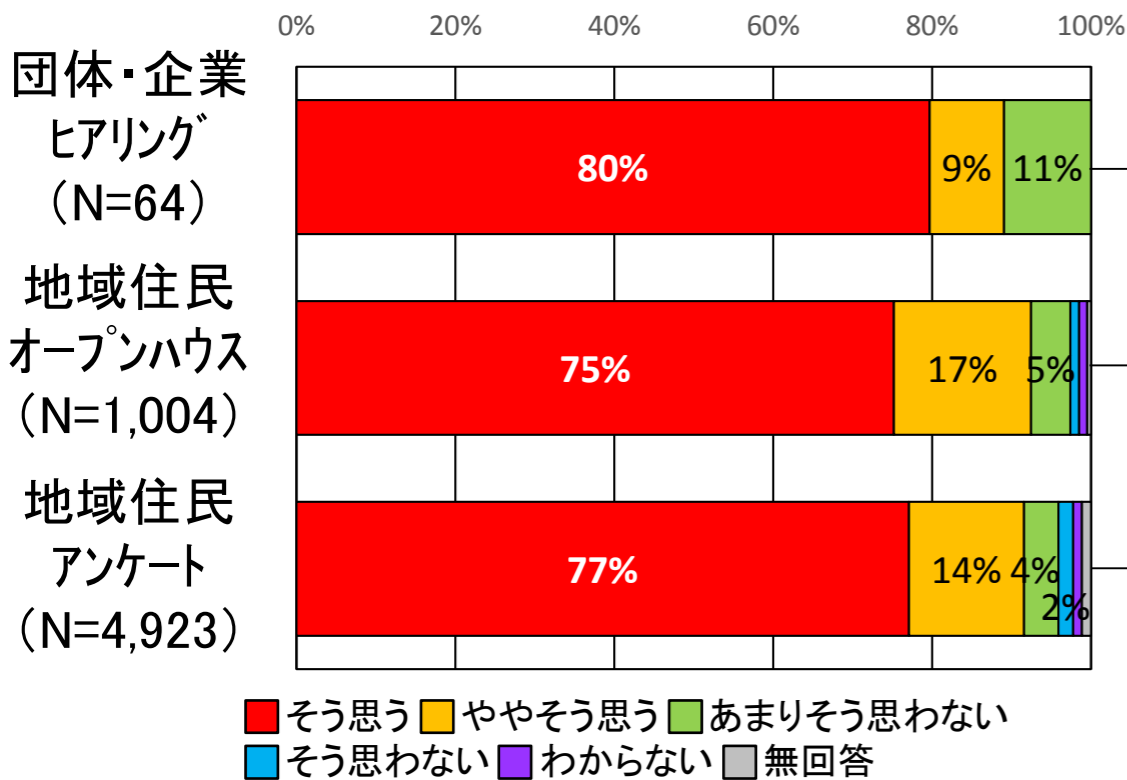
- ・現在、朝夕のピーク時に著しい渋滞が発生しており、渋滞解消が喫緊の課題となっている。(長崎県)
- ・運転ストレスの軽減や、交通事故の減少に期待。(大村市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果【②救急病院に早く行けること】

- いずれの意見聴取方法においても、約9割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見においては、渋滞が救急搬送の妨げになっているとの声が多く、緊急車両のスムーズな走行が期待されている。
- 自治体意見においても、大村市の第3次救急医療施設までの搬送時間が課題とされており、速達性の向上が重要との意見がある。



- 国立医療センターや諫早の救急病院等へ行く救急車が、渋滞車両を縫いながら走行している光景を見かけるので、改善が必要。(大村市)
- 上下車線ともに、一定の通行量があるため、救急車が立ち止まっている光景をよく見かける。人命にかかわることであり、重要なことだ。(大村市)
- 医療センターへ救急車両がよく通っているようだが、渋滞が救急搬送の障害になっている。改善が必要。(大村市)
- 島原地域で救急搬送の事態が発生した場合は、大村の医療センターを利用することが多いので重要。(島原市)

- 救急の時の命の重大さを感じる。(諫早市)
- 早く2車線にしていれば、朝・夕方の渋滞もなくなり、緊急車両もスムーズに走行できると思います。(大村市)

- 救急車のスムーズな走行等、命に関わる事は重視したい。(諫早市)
- 朝夕のラッシュ時にたまたま通る際など、もし今救急車が来ることがあればどうなるのだろうと恐くなります。(諫早市)
- 片側一車線なので、救急車両に道を譲りたくてもできないことがあった。(大村市)
- 救急車がスムーズに通行できていない。ドライバーが無理なく車を寄せられるように、道路整備をお願いしたいと思います。(大村市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

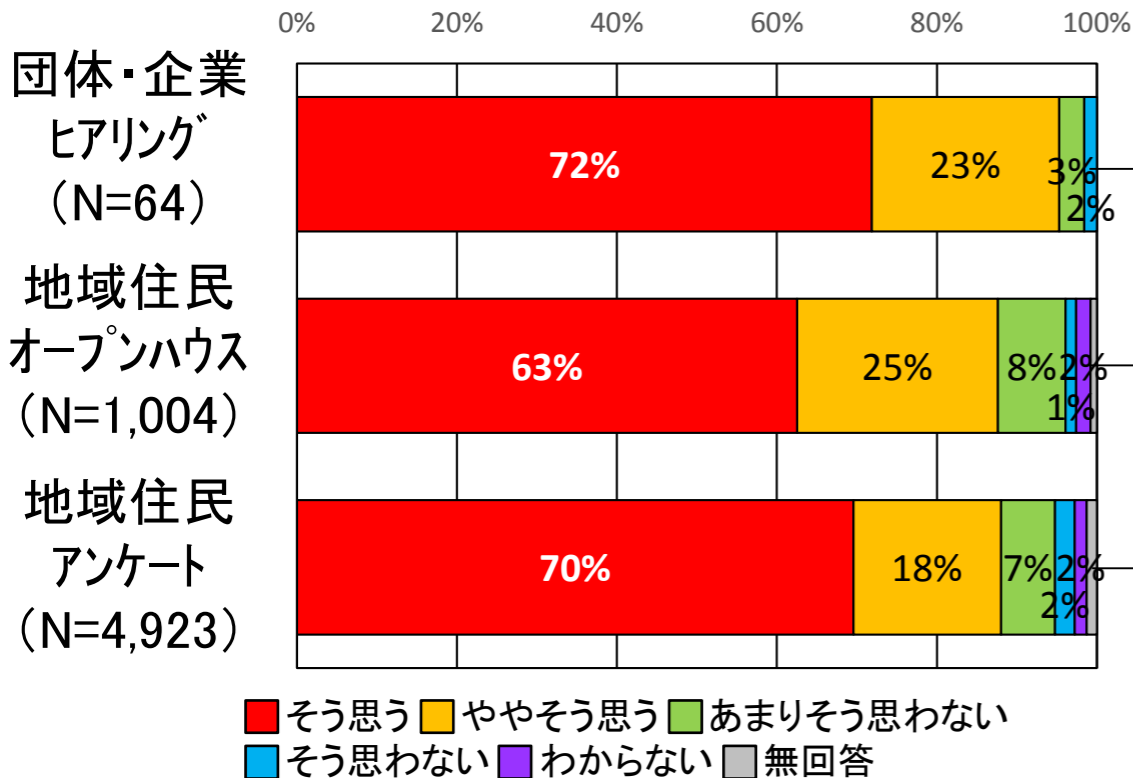
【自治体意見】

- ・ 第3次救急医療施設へのアクセス道路であり、市民の命を守るために速達性向上は重要事項である。(諫早市)
- ・ 大村市には第3次救急医療施設である(独)長崎医療センターが立地しており、搬送時間短縮が課題となっている。(長崎県)

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【③歩行者が安全・安心に利用できること】

- いずれの意見聴取方法においても、約9割以上が重視すべきであるという傾向にある。
- 自由意見においては、道幅が狭いという意見が多く、ドライバー、歩行者の双方が危険を感じている。
- 自治体意見においては、歩道幅員の確保により、歩行者の安全性向上が必要との意見がある。



- 鈴田峠を越えて、自転車で通学している生徒がいるので、人身事故回避の点からも十分な配慮が必要だと思う。とくに、弊社の場合この区間を1日当たり大型車両が50回程度通行するため、接触事故発生のリスクはなくしたい。(諫早市)
- 鈴田峠付近は歩道も横断歩道もないので、歩行者は危険だ。特に道の駅周辺は要注意。安全対策が必要。(大村市)
- 当該区間は車の通行帯が狭い印象があり、バスの風圧で歩行者がよろけたりする危険があるので、改善する必要がある。(長崎市)
- 鈴田峠付近を含め、2車線区間では歩行者をほとんど見かけないから。(諫早市)

- 交通量に対し、道幅が狭いので歩行者・自転車に対し、危険を感じています。(諫早市)
- 歩行者が歩いているのを見たことがないので必要性が分からない。(諫早市)

- 歩道が狭い所があり、子供が大変危険です。(大村市)
- 散歩でよく利用するが、車が多く歩行者にはとても歩きにくいので歩行者の為の道づくりをして欲しい。(大村市)
- 歩道がもっと整備されるべきだと思う。(通学)自転車や子供、高齢者が歩くには、まだまだ安全性が不足していると思う。(大村市)

【自治体意見】

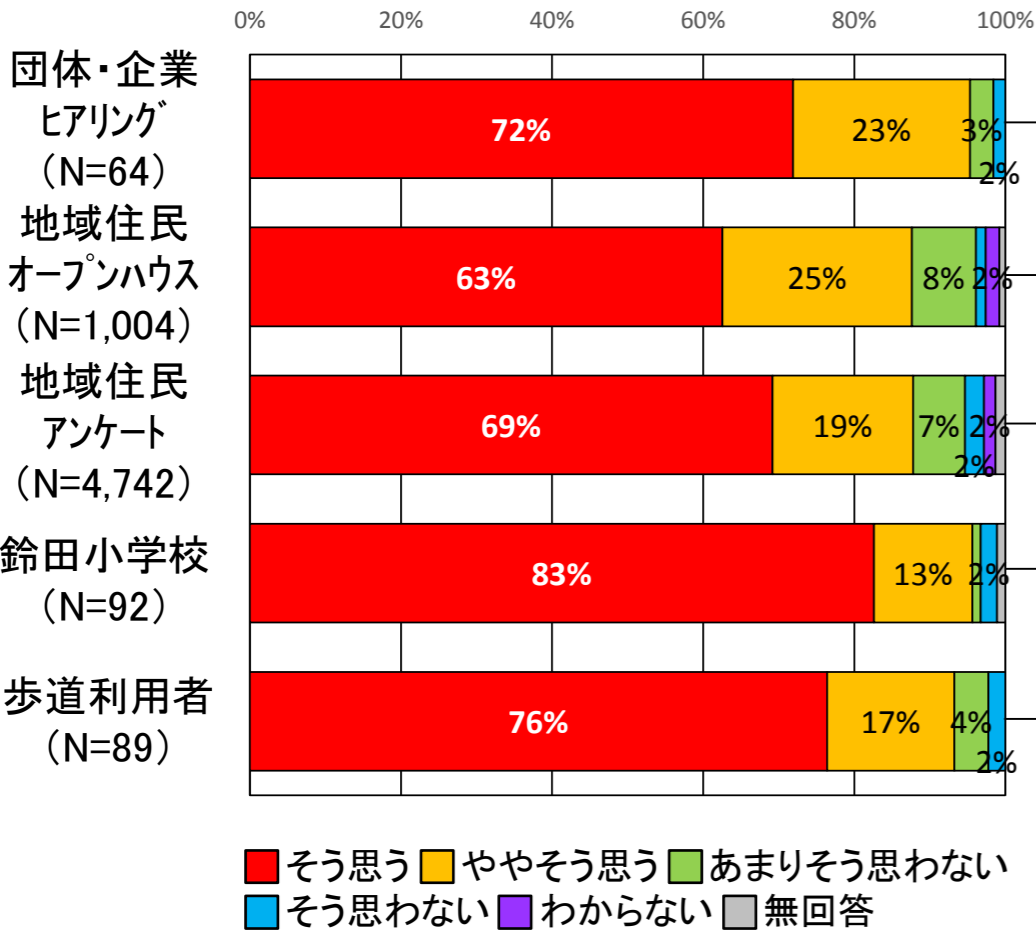
- ・歩道の整備により、JR岩松駅周辺をはじめとした歩行者の安全性が、大きく改善することを期待。(大村市)
- ・必要な歩道幅員を確保し、バリアフリーの空間を構築する必要がある。(諫早市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

【参考】意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【③歩行者が安全・安心に利用できること】

- いずれの意見聴取方法においても、約9割以上が重視すべきであるという傾向にある。
- 自由意見においては、道幅が狭いという意見が多く、ドライバー、歩行者の双方が危険を感じている。
- 自治体意見においては、歩道幅員の確保により、歩行者の安全性向上が必要との意見がある。



- 鈴田峠を越えて、自転車で通学している生徒がいるので、人身事故回避の点からも十分な配慮が必要だと思う。とくに、弊社の場合この区間を1日当たり大型車両が50回程度通行するため、接触事故発生リスクはなくしたい。(諫早市)
- 鈴田峠付近は歩道も横断歩道もないので、歩行者は危険だ。特に道の駅周辺は要注意。安全対策が必要。(大村市)
- 鈴田峠付近を含め、2車線区間では歩行者をほとんど見かけないから。(諫早市)
- 交通量に対し、道幅が狭いので歩行者・自転車に対し、危険を感じています。(諫早市)
- 歩行者が歩いているのを見たことがないので必要性がわからない。(諫早市)
- 歩道が狭い所があり、子供が大変危険です。朝夕と日曜日の渋滞が激しい。(大村市)
- 歩道がもっと整備されるべきだと思う。(通学)自転車や子供、高齢者が歩くにはまだまだ安全性が不足していると思う。(大村市)
- 散歩でよく利用するが、車が多く歩行者にはとても歩きにくいので歩行者の為の道づくりをして欲しい。(大村市)
- 車が多くいつも危険を感じている。歩行者が安全に通行できる道にして欲しい。(大村市)

【自治体意見】

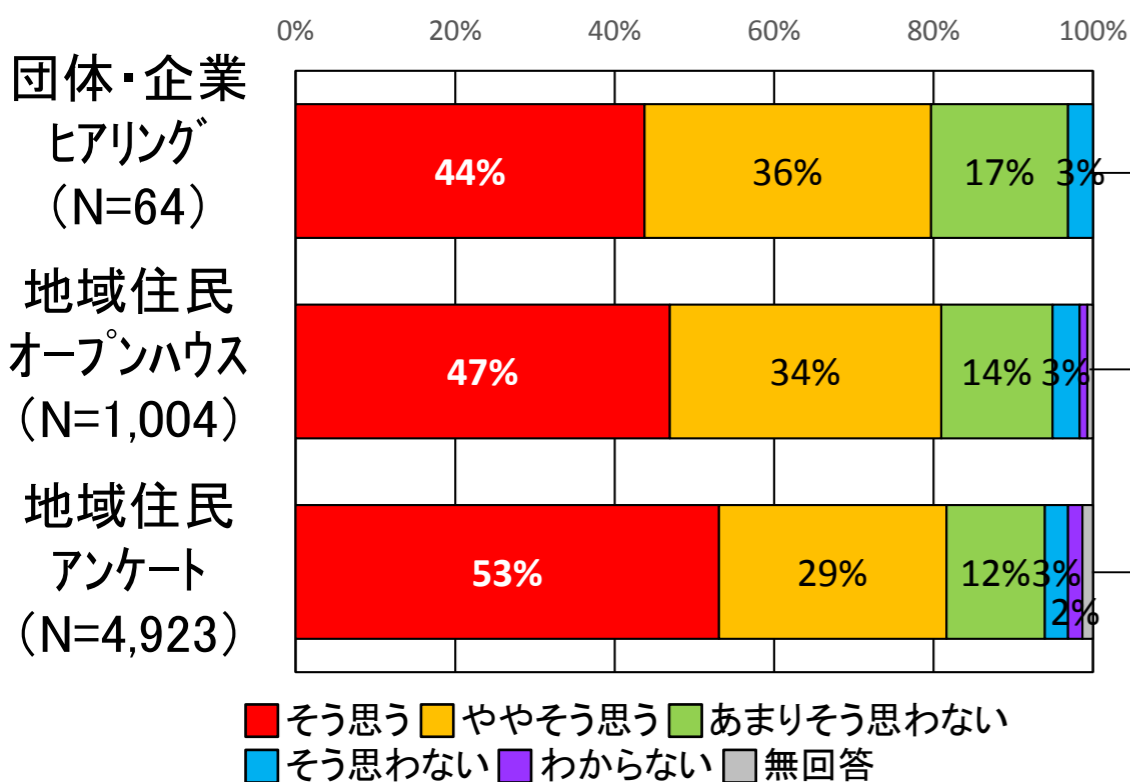
- ・歩道の整備により、JR岩松駅周辺をはじめとした歩行者の安全性が、大きく改善することを期待。(大村市)
- ・必要な歩道幅員を確保し、バリアフリーの空間を構築する必要がある。(諫早市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【④急勾配がなく、安全性・走行性が高いこと】

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、急勾配箇所における冬期の積雪や路面凍結が危険であるとの意見が多く寄せられている。
- 自治体意見でも、急勾配箇所における渋滞・積雪時の事故などが問題視されており、安全性・走行性が保たれていないとの意見が出ている。



- 鈴田峠付近の道路構造には問題があると感じており、通行の安全性の向上の意味でも改善は必要。(諫早市)
- 鈴田峠付近はカーブがあるため、ブレーキを踏むことも多く、それが渋滞発生の原因になっているのでは。また、冬場に路面凍結した場合は、勾配のために車が動けないこともあるので、改善を望む。(諫早市)
- 急勾配の解消により、走行の安全性等が高まるのであれば、交通事故減にもつながるのでいいことだが、それほど勾配はないのか。(大村市)

■ 急勾配と寒冷時期の道路の凍結は、非常に安全性に問題だと常々感じていたところでした。より安全でスムーズに通行させて下さい。(諫早市)

- 積雪や凍結があると峠で車が止まり、通行に支障が出てマヒすることがある。(勾配の関係が原因大である)(大村市)
- 冬の時期に、鈴田峠がいつも路面凍結するので、スリップ事故を起こしそうになりました。急勾配のため、スタッドレスタイヤでも滑りました。どうかしてほしいです。(大村市)
- 二十数年通勤で鈴田峠を通っているが、鈴田峠は渋滞に加え急勾配・急カーブと事故の要因が山積している。(大村市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

【自治体意見】

- ・急勾配の箇所では、積雪時などのスリップ事故が多く、速度低下も発生していることから安全性・走行性の向上が課題となっている。(長崎県)
- ・鈴田峠の急勾配が渋滞の原因の一つであり、また悪天候でも安全に走行できるようにすべきである。(諫早市)

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

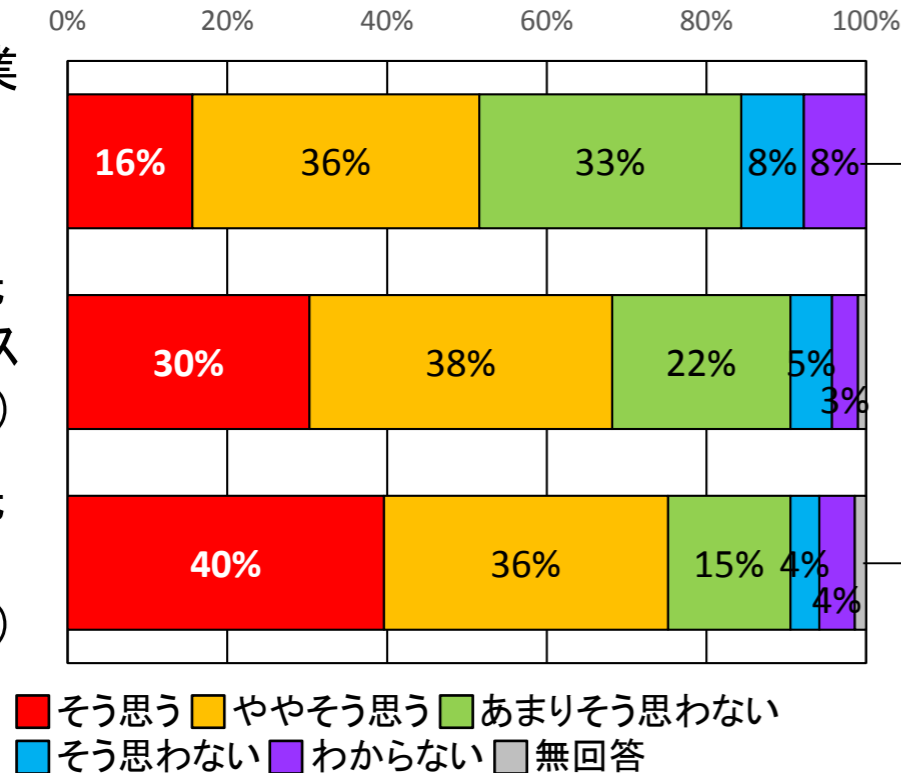
■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【⑤家屋の移転や、騒音等の影響が少ないこと】

- いずれの意見聴取方法においても、5割～7割程度が重視すべきとやや低い傾向にあり、特に地域住民が多い。
- 自由意見においては、沿線住民への影響は少なくすべきとの声が多い。
- 自治体意見においても、沿線住民への影響は最低限に抑える必要があるとの意見が出ている。

団体・企業
ヒアリング
(N=64)

地域住民
オープンハウス
(N=1,004)

地域住民
アンケート
(N=4,923)



- 沿線の住民の生活環境を考えると、当然こうした視点も重視させるべき。利便性第一ではないのでは。(大村市)
- 当該区間は、市郊外にあり家屋等も少なく騒音問題も少ないが、民家への影響は少ない方がいい。(大村市)
- 地域住民への影響は、極力少ない方がいい。(諫早市)
- 道路整備による周辺への影響は少ないほうがいい。(大村市)
- 多少の移転は、現状の問題解決を考えると仕方ないが、少なくて済めばそれが望ましい。(大村市)
- 道路整備による利便性を考えると、多少は仕方ないのでは。現状として、当該地区には移転が必要な家屋等はそうないのではないか。(諫早市)
- 家屋移転等の負担、騒音問題より、現状の改善を優先課題に考えている。とにかく拡幅を急いでほしい。(大村市)

【自治体意見】

・沿道住民への影響は最低限に抑えつつ、多少の影響はやむを得ないと考える。(大村市)

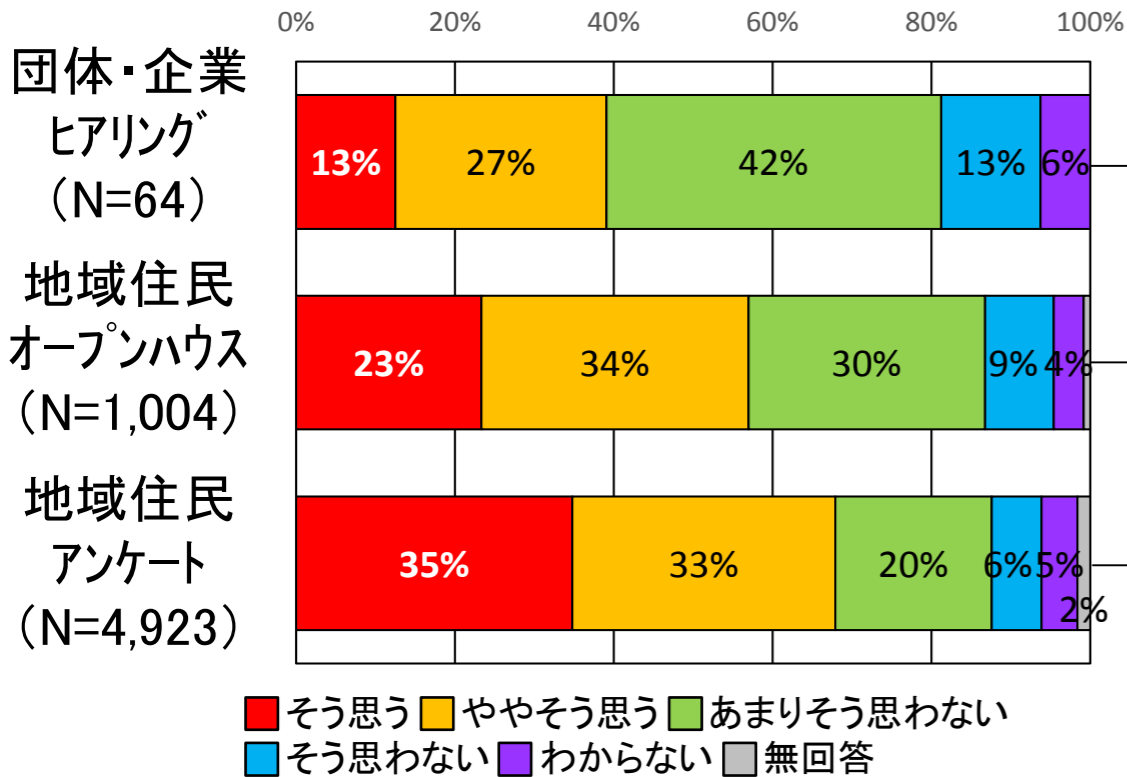
- 家屋の移転を最小にし、住民生活の変化をできるだけなくし、かつ、安全な道路づくりを目指して欲しい。(諫早市)
- 利用回数は少ないが、田畑(自然環境)、家屋移転等最小限であってほしい。(大村市)
- 事業費が安く、家屋の移転が少なく出来る事。(諫早市)
- 出来るだけ住民との話し合いがスムーズに行くこと、お金がかからない事が大事です。(大村市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【⑥自然・田畑の改変が少ないこと】

- いずれの意見聴取方法においても、4割～6割程度が重視すべきとやや低い傾向にあるが、地域住民(アンケート)では重視すべきとの声が多い。
- 自由意見においては、利便性の向上のみではなく、自然環境への配慮を望む声が多い。
- 自治体意見においても、改変を少なくし、自然との調和を図るべきとの意見が出ている。



- 会社としてはバイパス整備を望むが、やはり自然環境への配慮は必要。(諫早市)
- 道路整備のため、自然を犠牲にするのはいかがなものか。(諫早市)
- 大村市は大村公園の桜をはじめ、自然や自然景観を観光資源と捉えているので、自然の改変はできるだけ少なくしてほしい。(大村市)
- 当該区間の場合、自然等の改変により大きな影響が生じるとは考えにくい。(諫早市)
- 自然景観として名所等の保全すべきものがあるエリアではないので、やはり、道路整備による利便性、経済効率を重視したい。(大村市)

- 利便性だけを求めた結果、せっかくの大村の自然環境が悪くなることは、もったいないと思います。(大村市)
- 自然環境や景観にご配慮をいただければと思います。(大村市)

- 渋滞をなくすのは良いが、自然や田畑が無くなっていくのは好ましく思えない。便利を追求しすぎての自然破壊には反対。(諫早市)
- 今の人間の利便性のみを考えず、自然保全、環境等も十分に考慮して進めてほしい。(大村市)
- 渋滞は少なくなるというと思うが、沿線に住む人達の負担が増えたり、自然環境の破壊が少ないほうがいいので、うまく折り合いをつけてほしいです。(諫早市)

【自治体意見】

- ・周辺的环境との調和は図りつつ、多少の改変はやむを得ないと考える。(大村市)
- ・改変は少ない方が良いが、ある程度はやむを得ない。(諫早市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

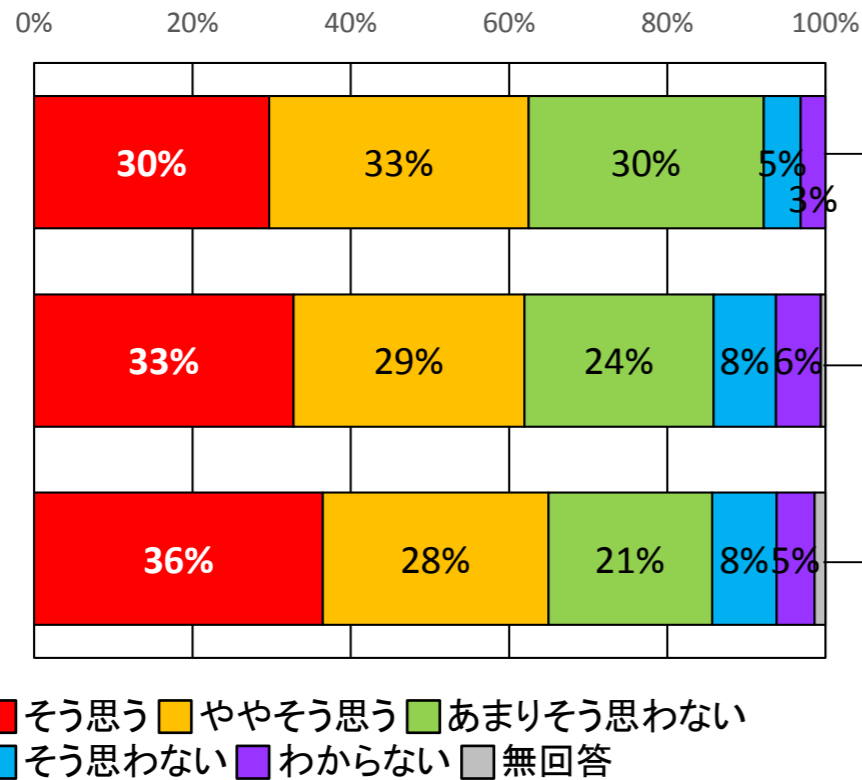
■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果【⑦沿道施設（JR岩松駅等）へアクセスしやすいこと】

- いずれの意見聴取方法においても、重視すべきという意見が6割程度とやや低い傾向にある。
- 自由意見においては、沿線施設へのスムーズなアクセスが課題として挙げられている。
- 自治体意見においては、アクセスの改善により沿線施設の利便性が向上し、利用者の増加が図られることを期待する意見が出ている。

団体・企業
ヒアリング
(N=64)

地域住民
オープンハウス
(N=1,004)

地域住民
アンケート
(N=4,923)



- 国道34号の2車線区間では、沿道施設へ国道から進入する時に時間がかかり、そのために渋滞が起きているケースがよくある。スムーズなアクセスは重要だ。(大村市)
- JR岩松駅への送迎等の車両の出入りが難しい感じがするので、もっとスムーズなアクセスができることは必要。(大村市)
- 道路整備事業により、JR岩松駅周辺を中心に住宅地としての発展が期待されるのでは。その点では生活環境の視点でアクセスの問題は重要では。(諫早市)
- 沿道の施設等へ観光客に立ち寄ってもらうことも重要だろうが、やはり、優先してほしいのは、現状の課題の改善だ。(諫早市)
- 現状でもそう不便を感じないし、重視するポイントではないのでは。(大村市)
- 当該区間は、ほとんど通過するだけで、沿道施設の利用はない。(大村市)

■ 通勤・通学はもちろん、アクセスの容易さは町の活性化や経済成長になると思う。(大村市)

- 国道34号の沿道施設からの出入がしやすいように検討して頂きたい(諫早方面、大村方面それぞれに出やすいように)。(大村市)
- 沿道施設から国道にスムーズに出られるようにしてもらいたい。(大村市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

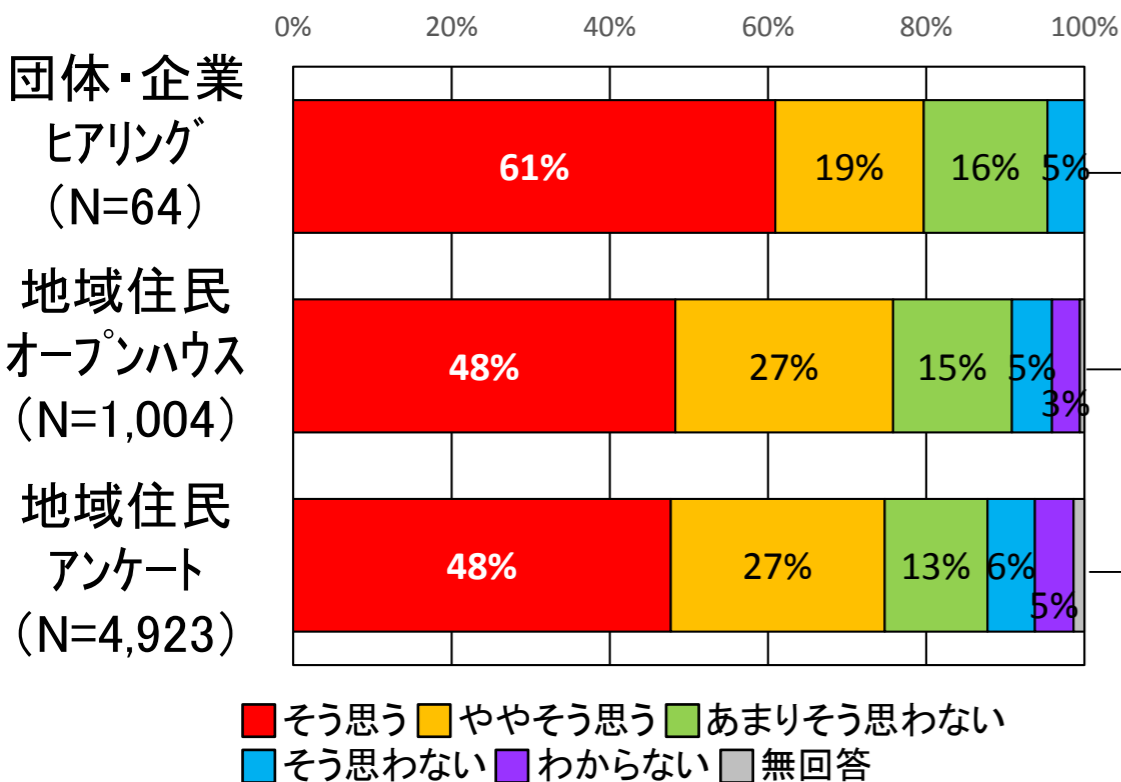
【自治体意見】

- ・岩松駅へのアクセスが向上し、利便性が高まることで、利用率の向上が図られることに期待。(大村市)
- ・施設利用者の利便性確保のため、アクセスはし易い方がよい。(諫早市)

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

■団体・企業、地域住民への意見聴取結果【⑧段階的に開通することで効果が早くあらわれること】

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきとやや低い傾向にある。
- 自由意見においては、段階的な開通による早期の渋滞解消や事故の減少を期待する声が多い。
- 自治体意見においても、早期に効果が発現し、段階的に課題が改善していくことを望む意見が出ている。



- 通行の利用頻度が高いだけに、渋滞解消、事故の回避などを含む走行の安全性の確保は喫緊の重要課題である。段階的であっても現状の早期改善を希望。(諫早市)
- 現状での県道37号線利用の不便さを考えると、早期の現状改善が望ましい。(諫早市)
- 現在の渋滞や事故の危険性を考えると、早く整備を進めて道路を拡幅してほしい。(大村市)
- 国道34号を利用して諫早、長崎、島原方面に荷物等を運ぶ必要がある企業が現状の改善を望んでおり、一日も早く改善の効果が現れるような対応を期待する。(大村市)
- 渋滞解消が実現すれば、配送コストの抑制が期待できるので、少しずつでも効果が出た方がいい。(諫早市)
- 国道34号の渋滞等の問題が改善されれば、今後利用する可能性もあるので、少しでも早く改善する方向がいい。(諫早市)
- 4車線が2車線に移行する付近では、無理な割り込み等が多く、追突の危険がある。こうした問題を改善するためには、一気に改善してもらうことがいい。(諫早市)

【自治体意見】

- ・早期に整備効果が発現できるような整備手法が望ましい。(長崎県)
- ・現状の課題を段階的に改善することが可能であると期待する。(大村市)

■ 段階的にでも早く開通することが良いと思う。(大村市)

■ できたところから早く開通して欲しい。(大村市)

■ 段階的に開通することの効果は期待できないと思う。(諫早市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

意見聴取の結果 <ルート帯案に関すること>

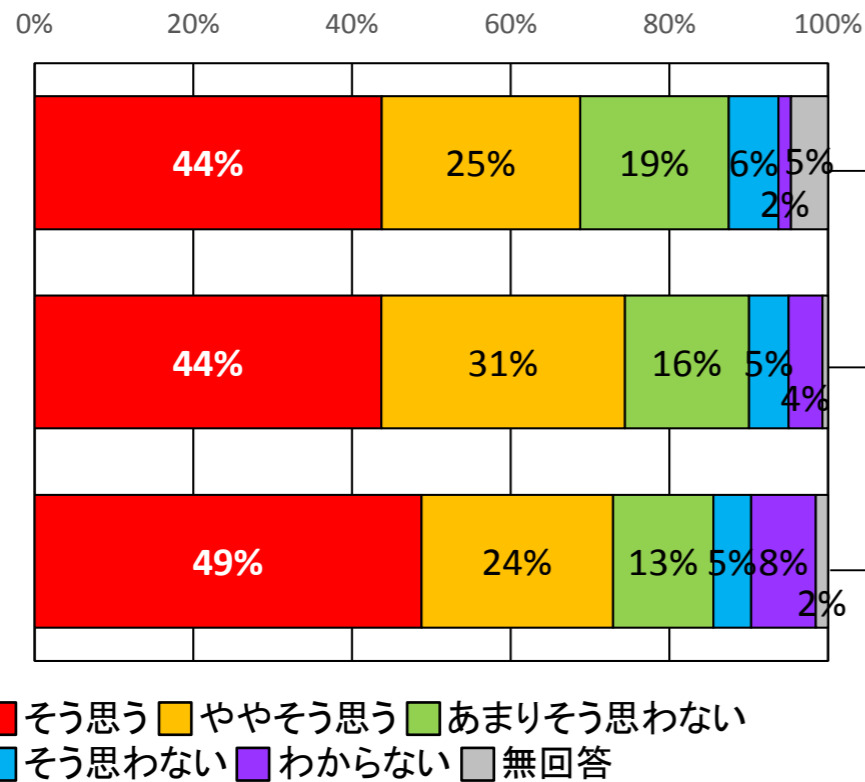
■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果【⑨事業費が安いこと】

- いずれの意見聴取方法においても、6割～7割以上が重視すべきとやや低い傾向にある。
- 自由意見では、公共事業であるためコストを抑制する必要があるとの意見が多い。一方、コストと道路整備の効果のバランスを図る必要があるとの意見もある。
- 自治体意見においても、事業費を抑えつつ、安全性・走行性を向上させることが重要との意見がある。

団体・企業
ヒアリング
(N=64)

地域住民
オープンハウス
(N=1,004)

地域住民
アンケート
(N=4,923)



- 公共事業なのでコストを抑制することが大切。ただし、そのことにより道路が有する機能面のレベルまでもが下がることはだめだ。(島原市)
- 公共事業につき、当然では。(大村市)
- 税金を投入しての事業なので、特にコストを安く抑えることに最も重視した計画を立ててほしい。(諫早市)
- 道路整備の効果が多岐にわたることが考えられ、その効果の全体的なバランスから事業費は評価されるべきでは。(長崎市)
- 道路整備は、費用対効果の観点から、その重要性・必要性が考えられるべきで、コストの点で検討されることはいかがなものか。その意味で、30年後、50年後を見据えた整備が重要だ。(大村市)

- 費用対効果を重視すべきである。(大村市)
- 大村市民・諫早市民ともに利用頻度が高い道路なので、事業費よりも利便性を重視した計画にした方がよいと思います。(大村市)

- 現在ある国道の充実と工事費用を出来る限りおさえる事が必要である。ムダな費用は無い事が大切である。(大村市)
- 事業費をおさえて、税金を他の分野にも使ってほしい。(諫早市)
- 若者の負担が少なくなるように計画して下さい。(諫早市)
- 税金を使って行われる事業なので、できる限り低コストで行ってほしいと思います。(大村市)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

【自治体意見】

- ・ 事業費の削減を図るとともに、安全性・走行性の向上も重要。(大村市)
- ・ 事業費はできるだけ抑えつつ、十分な事業効果の発現に努めていただきたい。(諫早市)

■自治体への意見聴取結果

<長崎県知事>

- 一般国道34号（大村～諫早）における九州地方整備局としての対応方針（素案）に同意します。
- 本県としましても、平成34年度に九州新幹線西九州ルート開業を控える中、長崎の空の玄関口である長崎空港と県南地域のアクセス道路である一般国道34号（大村～諫早）の一日も早い整備を強く望んでおり、地域の交流促進や活性化が期待されるところであります。
- 今後、事業化に向け関係市とともに最大限努力してまいりますので、早期の新規事業化実現について特段のご配慮をお願いします。
- また、事業実施においては、コスト縮減にも努めていただきますようお願いいたします。